



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

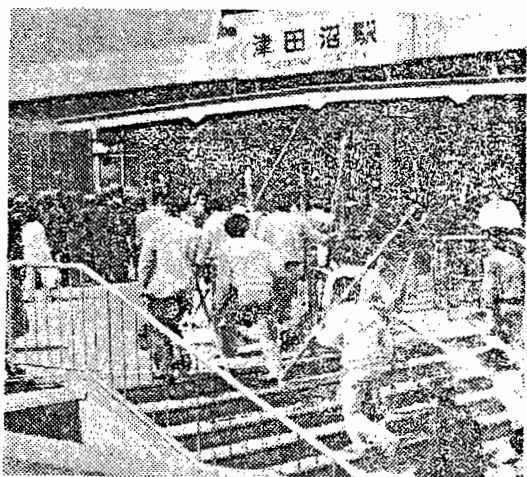
99. 1. 11 No. 4903

清算事業団新春座談会 中

動労「本部」との闘いが原点

警察・当局一革マル連合を実証

4月17日、津田沼支部襲撃のあと、堂々と武器をかついでひき上げる彼ら！これが「権力の謀略」をわめく者の真実の姿だ！



機動隊員の前を竹サオを背に引き揚げる本部オルク団

■今年も動労千葉結成から二〇周年を迎えますが、結成当時の思い出は。
伊藤 今の動労千葉があるって言うのは、動労本部との闘いが原点になってるんじゃないのかな。
全員 そうそう。
伊藤 あの時はみんな気合いが入っていて、活動家が一杯出てきてね。普段はなにも喋れない奴が東京駅で動労本部の連中に囲まれてごちゃごちゃやられても、負けなかったからね。
塩崎 あの頃のことには手にとるように覚えてるな。
高石 俺なんか「四・一七津田沼襲撃」があったから、忘れるに忘れられないね。
中村 自分たちは郡山にいて、独立して二年目くらいに帰ってきたんだけど、その時は組合がけっこう強かったじゃないですか。だから学園にいる時もいろんなことがあって結構面白かったね。

塩崎 青年部で行けば蹴られたりする中に行ってたんだからね。
伊藤 青年部がやられたとき、五〇代の年配の人たちが怒ってものすごい勢いで出てきたっぺよ。今思えば、動労本部に感謝しなくちゃいけないね。(全員爆笑)
高石 物販で全国回っても「動労千葉はなぜ強いのか」って聞かれるけど、俺は「動労本部革マルのおかげだよ」って言ってるんだ。やはり、あれだけやられたから固まったんだよな。
塩崎 目の前に敵がいないと、やっぱりだめだね。
伊藤 津田沼襲撃をやり、千葉運転区やほかの所もメチャクチャにしてね。
高石 「こんなやつらに負けたままるか」という気持ちになつたもんな。
中村 自分たちは清算事業団に三年間いて、ある意味ではプロイラーみたいに働かされないで

賃金を受け取ってたじゃないですか。それはみんなあそこにしたときにおもったと思うんですけど、「闘う」という人間の気持ちだめにするのは、ああいうことだと思っますよ。だから、動労本部との闘いがなかったら動労千葉がなかったのと同じように、清算事業団の闘いも敵をはつきりさせる必要があるよな。

高石 スト権スト以来何もやらないで、それでも春闘になればある程度取れた時代が続いてきて、そういう中で労働組合としての闘いを忘れさせちゃったというところがあると思うね。そこに分割・民営化攻撃が一気に来たから何もできなかったと思うんだ。

動労千葉はなんで助かったかというところ、その間でもジェット闘争やったりして闘いの経験を知ってたわけですよ。だから分割・民営化反対の闘いもあれだけのことのできたんだ。

■二〇年の中で一番印象に残ることは。

伊藤 一番はやっぱり八五年十一月の第一波ストだな。それまでのストライキと比べると質が全然違うもの。あの第一波ストでは、処分も含めて権力が法も何も無視して力をむき出しにしてやってきて全国的にも超有名になったけど、それでも残っ



85・11第一波ストライキ

青行隊は完全にスト拠点を防衛した。この戦闘力・献身・団結が必ず国鉄ゼネストを牽引するだろう。

ているというのは逆に不思議だよな。
高石 敵の側も、最近中曽根が言ってるように「国労潰し」だつていうのは、その時から分かってたんだから。動労千葉がしやかりきになるところじゃなくて、本当なら国労が全力でやらなくちゃいけないところだったんだよな。
塩崎 動労千葉の場合は色々闘いはやるけど、処分された人たちをききんと抱えてきたから続いたと思うんだ。そういう信頼関係があったから、最後の最後まで頑張れたと思うね。犠牲者を絶対に見捨てないっていうのが組合の原点だし、もしも一人でも見捨てるようなことになったら、その組合は終わりだね。